

生きもの教室の仲間たち

1980
作品ナンバー0192

文部省選定 第6回動物愛護映画コンクール最優秀作品賞・内閣総理大臣賞 1981年教育映画祭優秀作品賞

小学校3年のある学級に起きた飼育係をめぐる事件を中心に、「いのち」の大切さを訴え、子供たちの心の成長を描く児童劇映画である。小学校で実際に起きた出来事を映画化した。



2学期になって生きもの係になった哲や春彦たちは、克の持ってきたハムスターに大興奮。クラスのみんなには見せてやらないと、哲たちが独占して可愛がっていた。そんな中で、おとなしい洋だけが、こつこつと人気のない青虫の世話をしていた。やがてハムスターは赤ちゃんを産むが、翌朝あっけなく死んでしまう。さっそく学級会が開かれ、生きもの係は無責任だと非難が集中し、とうとう、威張っていた哲をはじめ係は、みんなクビになってしまった。哲たちは腹いせに、自分たちが家から持ってきた動物や巣箱を持ち帰ってしまう。洋の青虫だけが残り、洋はあいかわらず青虫の世話に忙しい。青虫は、エノキの葉しか食べないのだ。クラスから孤立したものと生きもの係の中で、春彦たちは反省して教室にまた動物を持ってくるが、哲だけはどうしてもクラスの仲間たちと仲直りしようとしないう。しかし、病気で休んだ洋に代わって、こっそりエノキの葉を探したのは哲だった。もちろんクラスのみんなには秘密だ。

そして、1週間後、サナギになった青虫が、いよいよ羽化する日がきた。息をのんで見守る3年3組の仲間たち。やがて小さな黒い固まりが、ゆっくりと這い出てくる。その時、哲の脳裏に浮かんだのは、死んでしまったハムスターの赤ちゃんの姿だった。精一杯生きる生きものの姿に心打たれた哲は、はじめてクラスのみんなに素直に謝ることができた。そして、ゴマダラ蝶を大空に放してやろうと提案するのだった。

劇
16ミリ
カラー／43分

■自主企画
■協力
市川市八幡小学校
3年3組の皆さん
他

スタッフ

■製作
村山英世
■脚本
塩田千種
内藤 誠
■演出
内藤 誠
■撮影
江連高元
■昆虫撮影
吉田嗣郎
■照明
高島利雄
■記録
渋谷康子
■音楽
杉田一夫
■編集
沼崎梅子